

2022年度 事業活動報告

1. 事業活動点検・評価

2022年6月、WE 21 ジャパン・伊勢原は、開店20周年を迎えました。記念冊子の発行やセールなどの記念行事を行うことができ、新たな気持ちで21年目を出発できました。

3年間に及ぶ感染症の蔓延は、伝染病第5類に移行となりマスクが必須ではなくなり、元の日常に戻りつつあります。

ショップ経営は、前年度より売上額は、約86,000円以上の増額となりました。これによって国外の団体に対する支援金額も、前年度より約11万円増額となったことはうれしい限りです。

新しい支援先としては、アフガニスタンへの支援を継続するとして、「平和村ユナイテッド」の報告会を実施し、支援金を送ることから始めました。また、1年以上前からロシアによる侵攻が続き、終息が見えないウクライナへの支援活動をしている団体に対する緊急支援としての募金活動を実施、シリア・トルコでの大地震災害被災地支援のために募金箱を設置しました。

2. 事業活動報告

(1) 資源のリユース・リサイクルを推進する事業（リユース事業）

① WEショップいせはらの運営を行いました。

- ・ 市民から寄付された提供品を整理・販売しました。
- ・ エコものセンターの物流（キャリア便）を利用して、提供された品物を季節ごとに仕分けして、季節に合った品物を販売することに努めました。
- ・ 今年度も引き続き、コロナ感染予防対策を継続して営業を行いました。
- ・ 今年はWEショップいせはらが、開業して20周年の節目を迎える年にあたり記念イベントを企画しました。そのひとつとして、お客様に日頃からの感謝の気持ちを伝えるために、メッセージカードを付けたエコ手袋を6月13日から来店されたお客様に配布しました。また、開店記念日の6月23、24日は記念セールとして、半額セールを実施しました。
- ・ 夏季・冬季のセールは、恒例企画としてたくさんのお客様が来店され好評の中、売り上げを伸ばすことが出来ました。
- ・ 2月から3月にかけての「和もの市」は、特にリメイク用の着物を安価でたくさん出すことで売り上げを伸ばす良い結果につながりました。
- ・ ボランティアミーティングは、1回のみで開催となり、ボランティアさん同士の交流の場を設ける事が出来ませんでした。12月の大掃除終了後に、受け取れない提供品のリストを見直し、お客様への対応について確認し共有しました。
- ・ 11月16日、倉庫deバザー見学会（4名参加）、また2月22日に他のWEショップ（えびな店・ごま相武台店）見学会を行い、6名のボランティアさんが参加。他のショップの様子を見る良い機会だったと感想がありました。

昨年度実績

営業日数： 285 日	(284 日)
売 上： 5,335,245 円 (月平均 444,604 円)	(5,248,440 円)
来客数： 延 9,540 人 (月平均 795 人)	(8,720 人)
提供者数： 延 1,849 人 (月平均 154 人)	(1,991 人)
ボランティア：延 872 人 (月平均 73 人)	(780 人)

- ・ 次の企画を行いました。

2022 年 6/23・24	20 周年記念セール	(売上金額 112,360 円)
8/8～10	夏物半額セール	(売上金額 88,255 円)
9/20～22	アクセサリ&バックフェア	(売上金額 27,780 円)
10/17・18	貧困なくそうキャンペーン	(売上寄付額 35,070 円)
11/30～12/3	冬物半額セール	(売上金額 156,270 円)
12/23・24	年末セール	(売上金額 88,630 円)
2023 年 1/6	初売り (お年玉チケット 48 枚を配布)	
2/27～3/1	和もの市	(売上金額 150,100 円)

② 寄付された品物で販売に適さないものは適正に処理をしました。

- ・ 衣類・カバンは、WE 2 1 ジャパンが提携している W. C o キャリーの運送に託し、(株) ナカノのファイバー工場へ搬入しました。
- ・ 事業系廃棄物として、(有) タチオカと契約し、可燃ごみ (1 袋 500 円)・不燃ゴミ (1,000 円) を分別し排出しました。
- ・ 綿製品のファイバーの一部は、小規模多機能施設「風の丘」でウエスとして利用していただきました。(1 袋 200 円で売却)
- ・ むいぐるみは、11 月 26 日・27 日に実施されたサポセンフェスタにて、景品に使用していただきました。

③ 資源の活用や民衆支援のために利用できるものの集積場所として、ショップを活用しました。

- ・ 世界の子どもたちのために使われている「ユニセフ外国コイン募金」の収集に協力しました。
- ・ フードドライブを 10 月と 3 月に実施し、集まった食料品は、「フードバンクいせはら」(実施団体：いせはら相互扶助の会ふらっと、協力団体：めぐみ不動産)に届けました。この団体は、生活困窮者や女性のシェアハウス入居者等に食料品を届けています。
- ・ 「グリーン・ダウン・プロジェクト (GDP)」に加入し、羽毛布団やダウンジャケットの回収に協力しました。
- ・ 使用済みの携帯電話等々の小型家電の回収機「めぐりケータイ」を店内に設置し回収に協力しました。WE ショップいせはらでの 2022 年度回収数は 25 個でした。
- ・ サーキュラー・コットン・ファクトリー (CCF) で実施している廃棄となる木綿の白布を紙類に活用する取り組みに協力しました。しかし布の選別の難しさや配送料がかかるなどの理由で、

WE21 ジャパンでの取り組みの継続は検討することになりました。(協力袋数 2 個)

④ リメイクチームが活動しました。

毎月第 1 日曜日の午後、ショップバックヤードにて行うこととしていましたがお休みも多くありました。ショップにある材料を活かして、小物づくりを行い販売しました。チームでは、メンバーが主に小物などの制作をしました。

4月3日	扇子飾り	9名
5月8日	扇子飾り	7名
6月～9月	休み	
10月2日	着物解き	9名
11月6日	未完成リメイク品の整理と仕上げ	8名
12月4日	ミーティング	8名
1月9日	休み	
2月5日	お手玉	6名
3月5日	うさぎのブローチ	9名

チームメンバーとは別に、数名が編み物や和ものからのリメイク衣料、バッグ類などを作成し販売しました。

⑤ スムーズなショップ運営と事業経営のため、WE 2 1 ジャパン主催の講座等に参加しました。

3月9日 リユースリサイクル基礎講座(米永)

《日時》	通年
《場所》	伊勢原市石田(WEショップいせはら)
《従事者》	理事 7名、ボランティア 実人数 19名
《受益対象者》	主に伊勢原市石田周辺在住の市民 顧客数 9,540名、 寄付者数 1,849名
《支出額》	4,683,327円

(2) アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業(民際支援)

WE 2 1 ジャパン・伊勢原の支援事業

2022年度の民際支援費は、国外に419,011円(前年度308,581円)で、前年度より約11万円の増額となりました。

フィリピンでの鉱山跡地の環境回復等の活動を支援していたBGA連絡会の活動が2021年に終了し、協力地域から拠出されたモニタリングのための経費(約30万円)を清算するため、各地域への返金(伊勢原は14,000円)があり、民際支援事業に役立てました。

支援先・金額等の討議決定は、理事会で行いました。また、支援先の担当者を決めて分担して対応しました。

●2022年7月6日、2023年3月31日

団体名：認定NPO法人 チャイルド・ファンド・ジャパン（ウクライナ緊急募金）

国名：ウクライナ 等

金額：27,541円（募金12,881円（7月6日）、募金14,660円（3月31日））

内容：昨年2月24日から始まったロシアによるウクライナへの侵攻は、終結の兆しが見えません。多くの住民の方々の生活が困窮し、未来への希望のない暮らしに対して、生活必需品の支援とともに子ども達から高齢者までの心のケア等事業に対する支援です。

継続：初めて

●2023年1月6日、3月14日

団体名：NPO法人 日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）

国名：イラク・シリア・日本（福島）

金額：112,200円（チョコ募金12,200円、寄附金100,000円）

内容：チョコ募金に協力。活動は、イラクの小児がんの医療支援、イラク国内のシリア難民が暮らす難民キャンプで妊産婦ワークショップの開催等と医薬品支援、日本国内での福島の子どもの放射能測定、保養活動、定期健康診断を行う団体を支援しています。

継続：7年目

●2023年3月1日

団体名：YVO（Your Voice Organization）

国名：アフガニスタン

金額：42,500円（募金12,500円、助成金30,000円）

内容：アフガニスタンにおける地域教育/識字アクション

現地団体YVOでは、例年どおり、主に女性に対する識字教育の推進を計画していましたが、2021年8月の大きな政変により、女性に対する教育ができなくなりました。YVOでは政府へ働きかけ、計画地域の半数の地域で実施できました。WE21 ジャパンの8地域が加入しているアフガニスタン連絡会と、現地との通信・翻訳・送金等の業務を日本国際ボランティアセンター（JVC）と委託契約を締結し、送金、活動報告書をいただきました。

継続：6年目

●2023年3月14日

団体名：認定NPO法人 幼い難民を考える会（CYR）

国名：カンボジア

金額：136,770円 布チョッキンに対する募金 36,770円1セット（お人形男の子2体・女の子2体・ボール大5個・小5個）を4セット36,000円 + 募金770円（10月18日・

19日の売上金を含む)、助成金 100,000円

内容：就学前教育が遅れている農村地域に「村の幼稚園」を開設し、4年目からは地域運営に移行するように支援、また識字率が低い地域の女性たちに対して理解を深める活動をしています。昨年に引き続いて、10月の「貧困なくそうキャンペーン」の期間に店内で「布チョッキン」を実施。布ボールの裁断は、店頭でお客様にも協力していただきました。

継続：4年目

●2023年3月14日

団体名：FGM廃絶を支援する女たちの会（WAAF）

国名：タンザニア、セネガル

金額：40,000円（反FGM基金30,000円、日本支部10,000円）（寄附金）

内容：2021年度反FGM基金の交付団体は、タンザニア「Woman Wake Up」、セネガル「LaPalabre Senegal」です。タンザニアでは、多くの人びとが集まる市場で毎月2回、街頭キャンペーンを展開。セネガルでは、ラジオ放送、学校での啓発授業、コミュニティリーダーの意識向上を実施しました。

継続：18年目（2021年は休止）

●2023年1月13日、3月20日

団体名：（一社）平和村ユナイテッド

国名：アフガニスタン・パキスタン

金額：60,000円（WE講座講師謝礼（助成金）30,000円、助成金30,000円）

内容：アフガニスタンでは、暴力が身近にある環境に対抗し、地域の人々が、家庭や地域で自身が経験した争いごとや解決の事例共有と学び合いを行い、自主的な平和や非暴力の取り組みを行うことを支援しています。パキスタンでも、平和をつくるための両国の交流・連帯・協力活動を行っています。

継続：初めて

① フェアトレード品等の販売

- ・しょうがパウダー（フィリピン）の販売をしました。これは、WE21 ジャパンが現地での製品化・パッケージの制作、輸入、販売までを手掛けてきたものであり、現地住民の方々との関係を構築して、WE ショップで販売している貴重なフェアトレード製品です。
- ・シサムコーヒーは、現地 NGO コーデリエラ・グリーン・ネットワーク（CGN）と交流しながら生産量のアップや品質の向上の支援をしてきたものです。
- ・「第3世界ショップ」から、チョコレート、ドライフルーツ、カレー等を卸購入し販売しました。
- ・東日本大震災復興支援品として、気仙沼のワカメ・昆布等の海産物業者「（有）ムラカミ」から卸購入し販売しました。おいしいと非常に好評でした。
- ・障がい者地域作業所の支援を目的に、菓子類の販売をしました。

(社福)伊勢原市手をつなぐ育成会 地域作業所ドリーム(伊勢原市桜台)のポップコーン
NPO 法人脳外傷友の会ナナピアサポートセンター「スペースナナ」(厚木市愛甲)のクッキー

② 支援の充実のためWE 21 ジャパン主催等の講座や学習会、NGO等の報告会に参加し、情報収集に努力しました。

5月25日 アフガニスタン連絡会 (Zoom 浜田)

6月17日 アフガニスタン連絡会 (Zoom 浜田)

9月6日 しょうがパウダー生産者との交流会 (Zoom)

しょうがパウダーのWE21 ジャパンのクラウドファンディングにメンバーが協力。(7名、13,000円)

12月6日 BGA 会議 (浜田)

1月17日 BGA 会議 (浜田)

1月27日 アフガニスタン連絡会 (Zoom 浜田)

2月27日 アフガニスタン連絡会 (Zoom 浜田)

《日時》	通年
《場所》	アジア地域、伊勢原市、厚木市
《従事者》	理事 6名
《受益対象者》	アジア地域の団体、神奈川県内
《支出額》	792,915円

(3) 地域市民の国際的な意義の自覚を促進する事業(共育活動)

支援事業・資源循環事業を推進していくうえで必要な情報を共有する場として「WE講座」を3回開催することとしましたが、2回となりました。

●2022年5月24日(火)

ワークショップ「今日はフェアトレードの日?!」

ファシリテーター:浜田順子

参加者:11名

内容:WE 21 ジャパン作成の教材を使用してワークショップ形式で講座を実施。チョコレート原料となるカカオ豆の生産地や収穫の様子、カカオ豆の価格のグラフ図などを示し、またしょうがパウダーの生産地の様子も示して、参加者に考えてもらう内容で、参加者からはフェアトレードを再認識し理解が深まったという感想がありました。

●2023年1月13日(金)

「平和村ユナイテッドの活動報告」

講師:小野山亮さん(平和村ユナイテッド理事長)

参加者：13名

内容：父親を殺された子どもが復讐を誓いだれもが銃を取る社会の中で、暴力ではなく対話の活動と呼び掛けている。「おもちゃの銃にNO!」と呼びかけ、戦闘で父親を亡くした子どもたちにゲーム等を通して、対話することの大切さを教えている。現地では、地域や家庭内にも暴力があり、特に女性の活動が制限されている。アフガニスタンに限らず、日本でも男性優位の考え方はまだ根強い。世界各地の紛争地域の人たちとも、対話と団結で平和へ。ユナイト!

●支援の充実のためWE 21 ジャパン主催等の講座や学習会等に参加し、情報収集に努力しました。

1月9日 WE21 ジャパン主催 WE 講座「核兵器のない世界は夢じゃない」(Zoom 浜田)

《日時》	通年
《場所》	WE ショップいせはら
《従事者》	理事 7名
《受益対象者》	近隣市民
《支出額》	3,337 円

(4) この法人の事業の広報普及を図る事業（広報活動）

- ① WE 21 ジャパン・伊勢原のHPに活動予定や報告を掲載しました。
- ② WE 21 ジャパン・伊勢原の活動を伝える「WE ニュース」を発行しました。
年3回発行の予定でしたが、年2回となりました。
No. 65 (2022年6月1日発行) (600部発行)
WE いせはら 20周年の歩み、20周年記念セール案内、2021年支援先情報 等
No. 66 (2022年9月3日発行) (300部発行)
貧困なくそうキャンペーン (布チョッキン案内)、ウクライナ支援情報 等
「WE ニュースCM版」は、随時市内に配布しました。(約1,000部配布)
- ③ 店内の掲示・パンフ類は、国内外の支援先の情報を掲示しました。
キャンペーン、WE 講座、セール等の案内の掲示を行ないました。
- ④ 広報充実のためのWE 21 ジャパン主催等の講座や学習会には参加できませんでした。

《日時》	通年
《場所》	WE ショップいせはら
《従事者》	理事 7名
《受益対象者》	近隣市民
《支出額》	18,101 円

3. 事業を進めるための組織活動

1) 組織活動

- ・理事会は、毎月原則として第1土曜日午前に開催、計画に沿って提案・討議し実行しました。
- ・会員数は33名です。(目標40名)

2) 20周年事業

6月にWE21ジャパンの開店から20周年を迎えて、記念冊子を発行しました。発行部数：100部。これまでの会員・協力者・WE21ジャパンの各地域に配布しました。

20年間の活動の紹介・推移と、現在のボランティアメンバーや理事メンバーからの一言などを掲載、写真を多く用いてわかりやすい内容となり、良い記念となりました。

3) WE21ジャパンおよびWE21地域NPOとの連携

- ・WE21ジャパンの団体会員になっています。(団体会費50,000円)
- ・WE21ジャパンとの契約に基づき、年額475,478円(物流事業費355,478円、商標使用料120,000円)を、WE21ジャパンに事業委託しました。(昨年度は年額462,334円)。
- ・理事長・理事が、グループ会議、学習会・報告会等に参加・協力しました。

4) 地域および他団体との連携

- ・県立伊勢原養護学校伊志田分教室の生徒2名のインターンシップ研修に協力しました。長期休業の期間を除き、毎週火曜・木曜の10時30分より12時まで、担当の教師と連絡を密にして、トラブルもなく協力できました。これについては、WE21ジャパン News「めぐりめぐるNo.82人がつながる想いがかけめぐる」で事例として、紹介されました。

- ・市内の環境に関わる活動を行っている団体の連携組織である「いせはら環境市民ネットワーク」(エコネット)に参加しました。

- ・市民活動サポートセンターに登録して、印刷機等を利用しました。

11月26日・27日 市民活動サポセンフェスタでは、ポスター展、および、フェアトレード品等の販売ブースに参加しました。

- ・生活クラブ生協いせはらコモンズメンバーが運営に多く参加している「やさしいマルシェ」に参加、出店しました。(11月3日 伊勢原総合運動公園にて)

- ・石田商工振興会に加入しています。

2022年 9月中旬 敬老事業に協力

2023年 1月14日 どんど焼き準備手伝い、 1月15日 どんど焼き手伝い

- ・石田自治会に加入しています。

5) 納税額

2021年度の税金は、70,000円(前年度は70,000円)を支払いました。

《日時》	通年
《場所》	WEショップいせはら
《従事者》	理事 7名
《受益対象者》	近隣市民
《支出額》	96,380円

